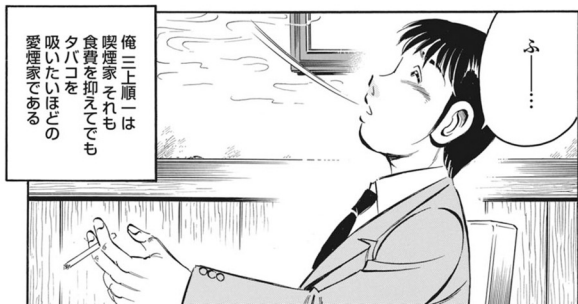
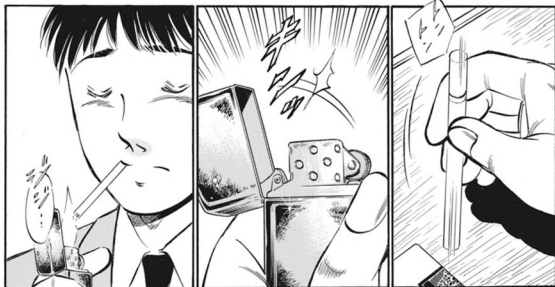


公亜雅

10年

初エッチの目

～挿れたら朝まで抜かないで～



ご存じの通り 近頃は
喫煙者にとつては
めつきり肩身の狭い
世の中になって
しまった

会社内は元より
公共の場での厳しい
分煙化に加え
タバコの値上げ…

今じゃ
条例とかもあって
気軽に路上で
一服なんてのも
できやしない

もちろん
体に悪いってのも
わかってるさ

けどタバコに
火をつけた時の
緊張から解放される
瞬間てのは
何物にも代え難い

それに
飯を食った後の
あの一服の
うまさ
言ったら

まあそんなわけで
禁煙する意志など
今のところ俺には
毛頭なかった

そう……

少なくとも
今日この時
までは



彼女は
隣のビルの
リサーチ会社に
勤めているのしだ

今
帰り？

名前は
高野朱理さん
24歳

ええ今日は
少し遅く
なっちゃって

会社近くの定食屋で
ちよつど相席した
のをきっかけに
話すようになったのだ

俺なんか
これでも早いほう
だけどね

大変ですね
営業のお仕事
してる方は

清楚で品があって
ちよつと
おとなしそうで…

初めて会った時から
彼女にはずっと
魅かれていた

よよし
今日こそ
誘ってみるか

今日の俺は
仕事だって
バカヅキだったし
きつと……

ああのさ
よかつたら飯でも
一緒にどうかかな？

誰かと？

あ…いや
そーじゃなくて
その…君と

今日仕事で
嬉しい事があつてさ
誰かと飲みたい
気分なんだよね

いいですよ♡

よっしゃあ
あああ!!

じゃあ
乾杯！

いやあ今日は
本当にラッキーな
日だよ

高野さんと
こうやって
飲めるなんて
夢みたいだ



